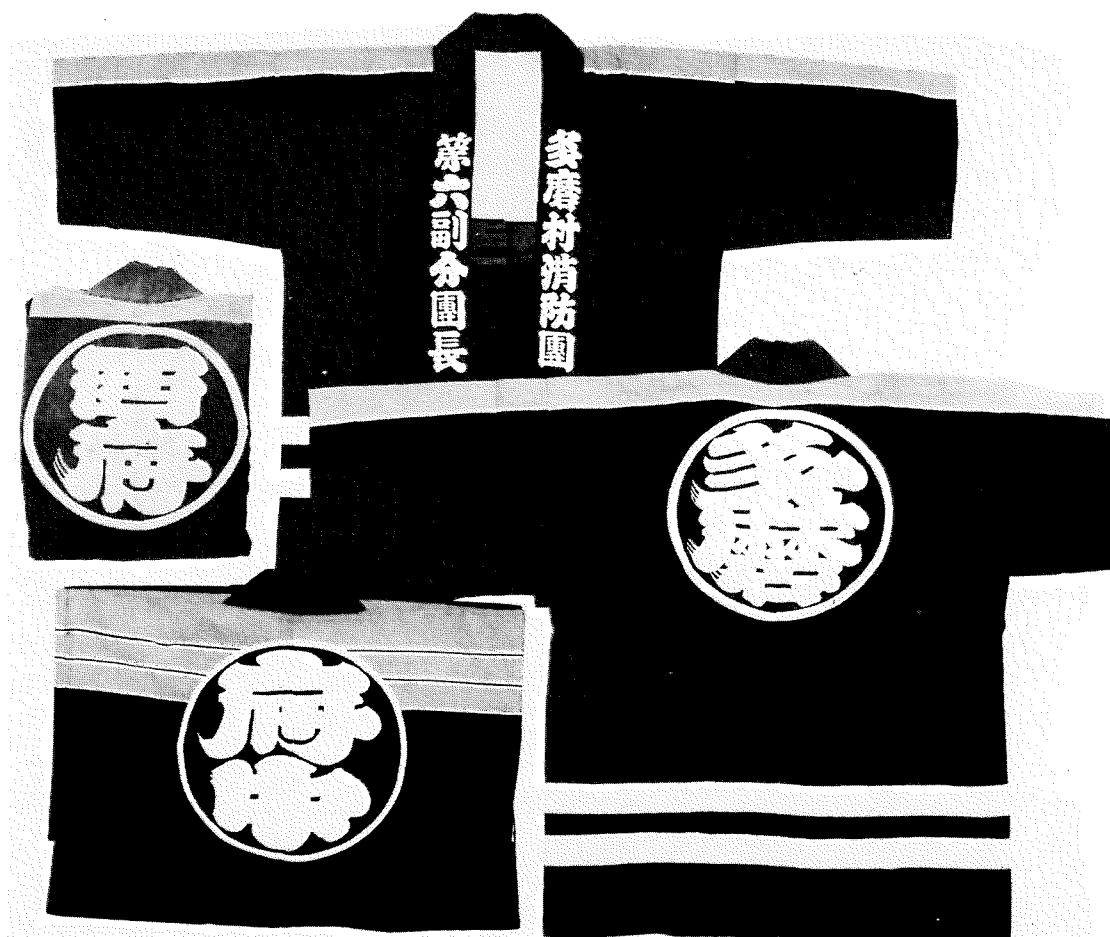


# あるむぜお

府中市郷土の森だより

No. 4

al museo



絆 纏

企画展

7月20日(水)～8月31日(水)

## 収蔵品展～最近の寄贈資料を中心として

府中市郷土の森は、昭和43年開館の府中市立郷土館の後を引き継ぎ、昨年4月にオープンした博物館です。

郷土の森では郷土館閉館以後も、積極的に博

物館資料を収集してまいりましたが、この収集資料の中から最近の寄贈資料を中心として「収蔵品展」を開催します。

## 収蔵品展から

# 絆 纏

絆纏は近世後期になって出現したもので、防寒用と仕事用とがあり、両者を兼ねる場合もあります。

仕事着としては、職人・鳶人足などが着る長絆纏や印絆纏などの職人絆纏があります。また紺木綿の単または裕の仕立てで、出入先あるいは親方からもらう店絆纏には、屋号・家紋・組名・組印が染め出しているのが普通で、盆と暮に贈られてこれを「お仕着せ」と呼んでいました。また特殊なものとして、革絆纏や刺子絆纏があり、伊達と防寒を兼ね、あるいは火事の消火作業に着用されました。

絆纏を着るということは、単に衣服をまとうということにとどまらず、身内として縦と横のつながりをもつことでした。職人絆纏や店絆纏などは互いの信頼の上に着るもので、ましてや生命の危険が伴う消火作業における絆纏は、まさにその典型といえましょう。

表紙の写真は、すべて府中市内の消防団で主

に大正時代から昭和初期にかけて使用されたものです。江戸時代には火事がおきると、籠桶で水を運んでかけるが、鳶口で家を壊して延焼を防ぐことぐらいしか術はありませんでした。そして消防夫たちは、きわめて火に接近して仕事をしなければならなかったのです。そのため消防夫は火勢を肌に通さない刺子の絆纏をまとい、しかも肌着絆纏で身を護るという二重のいでたちで消火にあたりました。しかし明治時代に入り消防用の腕用ポンプが発達すると、放水の威力は比べようもないほど大きくなり、火にそれほど接近しなくても消火にあたることができるようになります。そうなるまでそれまでの物々しい服装は必要なくなり、むしろ活動しやすい軽装になっていきます。

このように道具の発達および技術の進歩により、時代とともに服飾もかわってきたことを、この印絆纏は物語っているのです。(G)

## 昭和62年度の利用状況 (S62.4.4～S63.3.31) 開園日数305日

区 分		有 料		減 免	合 計
		一 般	団 体		
入 園 者	大 人	23,397	1,656	174	25,227
	子 供	6,901	4,581	541	12,023
	小 計	30,298	6,237	715	37,250
博 物 館 入 館 者	大 人	37,087	5,268	1,095	43,450
	子 供	20,107	14,413	329	34,849
	小 計	57,194	19,681	1,424	78,299
プ ラ ズ タ リ ウ ム 観 覧 者	大 人	46,704	6,719	1,147	54,570
	子 供	32,704	19,874	363	52,941
	小 計	79,408	26,593	1,510	107,511
合 計		166,900	52,511	3,649	223,060

単位(人)

## 旧越智家住宅

郷土の森には、市内を横断する立川段丘崖（ハケ）が復原されており、ハケ上とハケ下に一棟ずつ茅葺きの農家を移築しています。ハケ上の農家が前回紹介した旧河内家住宅、ハケ下のが旧越智家住宅です。ハケ上では畑作を、ハケ下では主に稲作を営んでいたという違いがあります。

旧越智家住宅は、郷土の森のすぐ西側、旧芝間（現府中市南町）に10数年前まで建っていました。もともと旧坂浜村（現稲城市）の農家を明治22年頃日芝間に移したもので、その創建は江戸後期まで溯るといふ古い造りです。

郷土の森での旧越智家のまわりには、昔のままにカシグネ（防風垣）を巡らせています。庭先には畑や水田も作っています。そして季節季節の自然と風物と年中行事がそこで少しずつ再現されていくこととなります。水田では、できるだけ機械を入れずに化学肥料も使わずに、子どもたちといっしょに米作りをやっていきます。ちょうどクワを入れて田起しを始めた頃、小川が流れ始めた田んぼからは、茅葺きの屋根と青空に舞う鯉のぼりが望めました。秋の収穫の頃、黄金色に実った稲の掛干しの風景を夕日を浴び

ながら見ることもできるかも知れません。茅葺きも庭の薪もレンゲの花もイロリノ煙も、懐しい農村の風景として郷土の森にはいつまでも残しておきたいと思います。

新聞やニュースで毎日のようにとりあげられるように、日本の農業は大きな問題の渦中にいます。しかし、農業が日本の歴史と社会に長い間果してきた役割が測りしれないことは今さらいうまでもありません。多くの日本人は米作りを生業として、米を主食としてきました。日本が近代化していく過程で、明治後半の資本主義確立期にも、戦後の高度経済成長期にも、根底でこれを支えてきたのは、実は一軒一軒の農家であつたといえるでしょう。さらに自然の生態系の保全、景観や生活空間として人々に与えてきた文化的・精神的な農業の役割も見直されなければなりません。農業のきびしい労働の合い間、懐しい農村の風景が人々の生活にどれだけ安らぎを与えてくれたか、今さらのように思い起こすのではないのでしょうか。

懐しさの体験を通じて、今日の社会や生活のいろいろなことに思いをめぐらしてみたいかがですが。（〇）

旧所在地 府中市南町6-46  
 解体 昭和48年3月  
 復原 昭和62年3月  
 構造 木造平屋建茅葺き  
 延面積 65.00㎡  
 設計・監理 (解体)テム研究所  
 (復原)早稲田大学建築史研究室  
 (代表)渡辺保忠  
 施工 (解体)田丸屋建設㈱  
 (復原)衛田中木工



## 今、なぜ博物館が

郷土の森がどんな施設なのか。博物館ではいったいどんなことをやっているのか。ということをお話を3回にわたってお話してきました。今回は、「なぜ博物館が必要なのか」「なんで、博物館はこんなにたくさんあるのか」という疑問にお答えしようと思います。

### ＝なぜ、博物館が必要なのか＝

すでに何度も言いましたように、博物館は教育の場です。そして、なによりも、「もの」を見て学ぶことに大きな特色があるといえます。

「百聞は一見にしかず」ということわざがあり、本に並ぶ文字や人の話、あるいは写真からでさえ読みとることのできないことを「もの」は教えてくれます。ここに「もの」を見ることの大切さがあります。郷土の森には、昔の人が使っていた道具などさまざまな「もの」が展示されていますが、実際に「もの」を見ることによって、素朴な疑問が生まれ、さらに、当時の人々の姿を想像することもできるでしょう。

郷土の森は、「もの」を通して、府中という地域で、人々が歩んできた過去から現在までの道のりとその環境を知ることのできる場所です。ちょっと、堅い話になってしまいますが、過去と現在を知ることにはどんな意味があるのか考えてみましょう。

私達人間は、人それぞれに暮らしの中で積み重ねてきた多くの経験を持っています。こうした経験をもとに私達は生活しています。失敗は二度と繰り返さないように努力し、成功はその後の行動の自信につながります。これと同じように、人類の経験してきたこと、すなわち歴史にも、自ら誇れる歴史もあれば、話題にしたくない悲惨な歴史もあるのです。こうして考えると、私達の祖先の歩んできた道をたどると言うことは、私達がこれから歩いていく未来の道知るべになるとは思いませんか。そしてこうした

歴史の生き証人が文化財なのです。

同じ様に、大昔から、私達人間は、生活のために少なからず自然環境を破壊し続けてきました。今後私達の生活と自然保護の両立をめざしていかなければなりません。

「もの」を見て生まれたちよつとした疑問は、私達に実に多くのことを教えてくれるのです。だからこそ「もの」との出会いを大切にしたいですね。

### ＝何で、博物館はこんなにたくさんあるのか＝

今、日本は博物館ブームと言えます。私達の住んでいる多摩地区にも56もの博物館施設があり、そのうちの21は公立の郷土博物館なのです。「こんなにたくさんの博物館が必要なのか？」という疑問が生まれるのも当然かも知れません。

でも考えてください。どんなに小さな町や地域であってもそこにはその土地の特質があると思いませんか。府中市とその周辺の市を比較してみてください。気づかないかも知れませんが、やっぱり少し違うのです。なぜなら、それは、地域ごとに永い歴史的風土によって培われてきたものだからです。だからこそ、こんなにたくさんの博物館があるのです。

世の中の移変わりが激しい今だからこそ、過去を振り返り、現在をじっくり考えたいですね。

さて、4回にわたって博物館の話題をお届けしてきました。できるだけ読み易い文章を心掛けたつもりですが……。

何はともあれ、皆さんと共に、楽しめる博物館を目指していきたいと思います。みんなの郷土の森を目指して！

おわり  
(F)

## 明治期「啞鈴、球竿、棍棒」体操の背景

石川 博幸

昭和43年に開館された、旧府中市立郷土館時代に開催した特別展「府中の教育百年展」（昭和50年1月）の折に、市立府中第一小学校より、木製の啞鈴1組、棍棒3本、球竿1本が出品されました。

これらの体操用具の使用年代をこのたび再調査しましたので、その結果について不明の点が多いのですが、ここに記述するものです。

我国の近代教育制度は明治5年(1872)の学制の制定以来、幾度かの改正を経て大正時代を迎えました。すなわち、12年の教育令、13年の改正教育令、19年の小学校令、23年の教育勅語の発布、33年の小学校令の改正(40年に再度の改正)があります。

この中で、体操教育には、幕末から明治の初めにかけて採用された洋式の兵制が、兵隊の訓練を兼ねて取り入れられました。当時採用された兵制はフランス制で、体操においても、フランスからデュクロが招かれ、器械運動を主とした体操が導入されました。

一方、学校教育では、学制制定後の明治9年に文部大輔田中不二麻呂がアメリカへ教育視察のために渡米。彼はアーマスト大学での体操教育に触れ、その重要性を感じて帰朝し、その後、明治11年に東京神田に体操指導の教員養成を目的とした体操伝習所を設立しました(明治19年に廃止)。アーマスト大学での体操は、医学に基礎理論をおいたダイオルイスの軽体操で、保健的なものでした。この伝習所を設立する時に、同大学の卒業生で医学士のノールランドを迎えたが、彼が紹介した軽体操は、木啞鈴、球竿、棍棒、木環などの軽手具を用い、一定の形式に従って行う体操で、陸軍のフランス式に対してアメリカ式と呼ばれ、軽体操と総称されました。

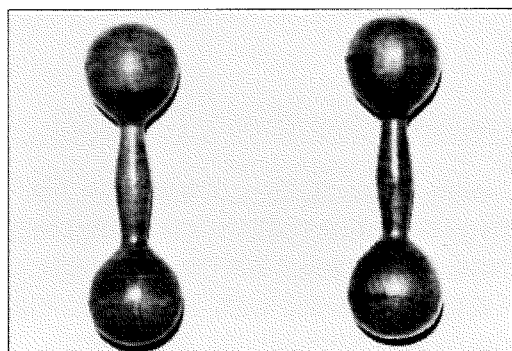
明治16年から各地の学校で運動会が催されると、当時の浮世絵師達は好んで錦絵や双六に描いたものでした。

当館所蔵の木啞鈴、球竿、棍棒は次のとおり

です。

〔啞鈴〕木製で、各1つの重量は215g、柄の両端の球形の錘の直径が7cm、錘と錘の端までの長さ23cm。使用方法は、現在でもよく見られる鉄製のものと同様に、片手で握り、上下したり振ったりして筋肉の鍛練に用いました。木製の場合は、桜の木が最も良いとされ、他の木の場合は、木質が緻密で堅牢なもので作られました。大きさは、使用する者の年齢や体力によって数種類のものがあります。

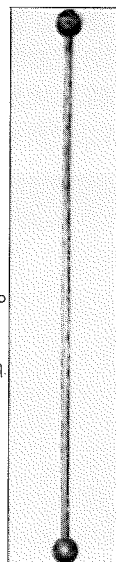
啞鈴体操の起源は古く、ローマ時代から行われていますが、17世紀にイギリスからドイツに渡り、ヨーロッパ諸国に普及しました。



〔球竿〕木製で、重量は580g、柄の両端の球形の錘の直径6.5cm、錘と錘の両端までの長さ137cm、大きさは教師用と生徒用のものがあります。当館所蔵のものは教師用のものと考えられます。

〔棍棒〕木製で、徳利型、頭部は小さな球状で次第に太くなっています。重量1,052g、長さ58.5cm、最大の直径10cm、手元の端の球の直径は3.5cm。啞鈴同様に2本で1組で使います。

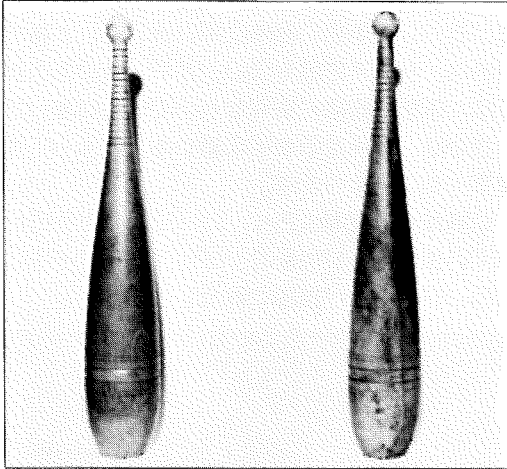
明治7年、文部省で発行した『体操書』では「ミル」と呼ばれ、12種類の運動が解説されています。棍棒には、男子用と女子用の2種類があり、



女子用は長さ37cmと、男子用に比べて小さく、軽いものでした。

梶棒は現在でも使用されているが、普通には35～45cmの長さで、重量も300～500g程度のものが普及しています。

梶棒体操はアメリカで発達し、昭和7年のロスアンジェルスズのオリンピック大会では女子の種目にもなりました。



小学校で体操が科目として採用されたのは、明治5年の学制制定以降でしたが、明治33年の小学校令の改正を迎えるまでは、随意科目として扱われていました。しかし、地域によっては、科目から除外される所も多くありました。

また、科目に取りあげた学校でも、体操時間の正式な時間配当はなく、学校の事情に応じて適宜に実施されました。さらに、明治19年の改正教育令の廃止と同時に小学校令が公布され



「学校技芸寿語録」(明治20年)より

ると、従来に増して国家主義第1の教育方針が確立する中で、体操教育は、唱歌と一諸の科目に組み込まれ、週5～6時間が配当されました。

明治30年代になると、「従順＝服従」、「友情＝協力」、「威儀＝指揮能力」の気質育成を主とした兵式体操も、学校教育に教練として組み込まれるようになり、そして、明治33年に川瀬元九郎が、36年に井口アグリがアメリカから帰り、生理学、解剖学の基礎の上に構成されたスエーデン体操が紹介されると、次第にアメリカ式の軽体操は姿を消すようになりました。

スエーデン体操の特徴は、球竿等の用具を使わず、例えば命令一つで行う組体操などを重視したものでした。特に、この体操が取り入れられたのは、大正2年に永井道明を中心として出版された「学校体操教授要目」以後でした。

この中で、体操科の目的は、①身体各部の均整な発育と、②各機能の発達と健康の増進、③動作を機敏耐久にすること、④精神を快活剛毅ならしめること、⑤規律を守り、協同を尚ぶ習慣を養うこととされています。

このような背景から、軽体操は大正期に入ると益々減少の傾向を強めることとなったのです。

以上の研究小レポート作成にあたっては、東海大学体育学部非常勤講師里見悦郎氏より貴重なご意見を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。



錦絵「学校生徒体操ノ図」(明治19年)より

## —最近の発掘調査から—

皆さん高安寺をご存じですか、この高安寺に立ち、南を見ると高さ数mの崖によって、台地と低地が分けられているのがよくわかると思います（わからない人は博物館の西側にある遊歩道を北に歩いて帰ると、JR南武線を越える橋がありますから、そこで立ち止まって見てください）。これが、博物館の最初のコーナーでも見てもらった洪積台地と、沖積低地の分かれ目です。

なぜ洪積台地や、沖積低地など持ち出したかといいますと、いままで府中で見つけていた遺跡が、洪積台地の上でしか見つけていなかったからです。これは、府中市の遺跡の多くが武蔵国府にかかわる遺跡で、国府のような役所は、洪水の心配のある多摩川の氾濫原＝沖積低地より、水の便が少々不便でも洪積台地上をその中心に選んだからのようです。

しかし、遺跡の立地について、多摩川の対岸にある田野市落川遺跡（京王線で、八王子方面に向かって行くと百草園駅の少し手前右手で今も調査をしています）などの調査により、多摩川流域にも沖積低地の微高地上に集落が営まれていたことが判明してきたわけで、“あるむぜお”2号でも書きましたが、府中でも古墳時代などについては水の便もよく、水田からも近い沖積低地に村があるのではと最近では、考えられてきました。

そして、このたび調査したところからは、あに図らんや古墳時代ならぬ、国府の時代の竪穴住居址が見つかりました。場所は市立府中第3小学校の東側、詳しく言えば、遊歩道よりももう少し東で、南武線の南西側です。そしてここは、府中の歴史をながらく

研究された菊池山哉氏が、国府の中心＝国府があるのではないかと推定された坪の宮地区の一角に当る所なのです。そして遊歩道のすぐ脇にある小さな社＝『坪宮』神社をその中心と考えられたわけです。

残念ながら、菊池氏の説は今回の調査から否定的であることが明らかとなったわけですが、菊池氏がここを国府推定地のひとつとして考えられた理由の1つに、第3小学校南側の用水建設の際に多量の土器が出土したという話があります。このことについて、はじめ私達は、崖の上から落ちてきた土器が見つかったのではないかなどと考えていたのですが、今回の調査の成果から、第3小学校の下にも遺跡が広がっていることが明らかとなったわけです。

このことは、武蔵国府がこれまで洪積台地上のみが集落の範囲であると考えてきたのに対し、これまでの洪積台地上の遺跡に、沖積低地微高地上の遺跡も加わり、これまで考えていた以上に、武蔵国府が非常に広大な都市であることが判明してきたわけです。（本町 仮称本町共同住宅地区の調査から・荒井）

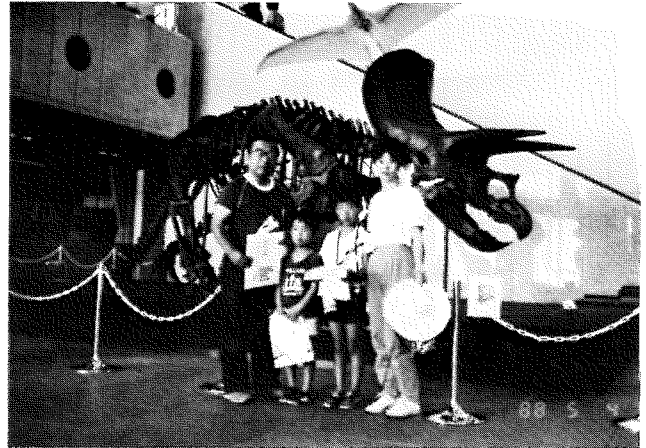


高安寺上空より崖下の第3小学校付近を望む

# カメラアングル

## 3/20～5/8 恐竜絶滅と隕石衝突の影響 白亜紀展 ▶

化石や隕石の展示を中心に、恐竜絶滅のストーリーを公開。浜田隆士先生の講演会も大好評でした。3万人目の入場者には記念品の贈呈がありました。



## 6/11 園内自然観察会

新緑の園内をすみずみにわたって草花観察。覚えた植物はさて、いくつでしょう？



## ◀ 6/25 こめっこクラブ

収穫に向けてさあスタート / お米づくりは田起こし、田植えから。不慣れな手で、いっしょけんめい植えました。きっと秋には大豊作？

## [昭和62年度 寄贈・寄託資料一覧]

### ■寄贈資料

	寄贈者	資料名	分類	数量	備考
1	石井 干城	百草松蓮寺之記 他	歴史	2	
2	高野 幸仁	フリマンガ 他	民俗	23	
3	三ツ木 荘次	板碑	考古	1	
4	加藤 富雄	フィゴ 他	民俗	5	



5	島村 和子	お手玉	民俗	14
6	島崎 嘉雄	トウミ 他	民俗	5
7	天野 静子	火鉢 他	民俗	9
8	小辰 忠雄	木鉢 他	民俗	4
9	沢井 寛司	高等小学国語書キ方手本 箱膳 他	教育 民俗	6 63
10	小幡 武主	縄ない機 他	民俗	2
11	林 繁	習字作品	教育	5
12	遠藤弥三郎	トウミ	民俗	1
13	村上 タキ	謡曲人形 他	民俗	4
14	飯島 長平	ナタ 他	民俗	8
15	高木 錠助	アシナカ 他	民俗	52
16	表 裕子	教科書	教育	2
17	多磨町念仏講	念仏講用具一式	民俗	331
18	吉野 千吉	むしろ編み機 他	民俗	4
19	村越惣十郎	水車歯車	民俗	1
20	田中 高恒	トウミ	民俗	1
21	岸 喜一	そば屋用具一式	民俗	473
22	柳田 宜重	鏡一式	歴史	1
23	影山 房次	火鉢 他	民俗	5
24	土屋 正雄	足踏み回転脱穀機 他	民俗	10
25	富松 久	教科書 他	教育	213
26	伊藤 暢直	メンコ 他	民俗	453
27	岩崎五三郎	文字簿	考古	1
28	鹿島 芳郎	車長持 他 教科書 他	民俗 教育	45 48
29	佐伯 正吉	衣料切符 他	民俗	77
30	松本 きみ	火鉢 他	民俗	13
31	大沢 忍	アンカ 他	民俗	4
32	五十川光一	水甕	民俗	1
33	飯田 幸	ミシン 他	民俗	19
34	田中 マサ	下駄屋用具一式 他	民俗	80
35	北村 勝利	屋敷神(手作りオイナリサン)	民俗	1

■寄託資料

	寄託者	資料名	分類	数量	寄託期間
1	桑田長次郎	明治6年太陽暦 他 庭訓往来 他	民俗 教育	13 36	昭和62年6月13日～ //
2	関口 祐正	東叡山勸学校院関係書籍	歴史	2055	昭和62年6月27日～ 昭和63年3月31日～
3	桑田 広治 高野 正彦	幟 護摩札 他	民俗 民俗	1 164	昭和62年6月28日～ 昭和62年9月7日～ 9月17日
4	大久保 俊	是政村戸長辞令 他	歴史	3	昭和63年2月5日～
5	白木 隆英	古文書	歴史	1	昭和63年3月23日～

あれこれ

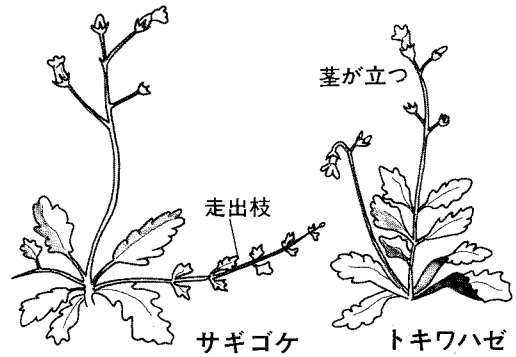
＝サギゴケとトキワハゼ＝

今回は、よく似た2種類の野草の話をしてしましよう。郷土の森園内、越智家住宅の南側に水田が完成しました。5アール程の面積ですがこの水田、先日はこめっ子クラブの子供達による田植えも行われ、いよいよ秋の収穫に向けて動き出しました。

この水田の畦道に、春先から田植えに入る少し前まで、白くて可愛らしい小さな花が地面をほうようにしてたくさん咲いていました。サギゴケと呼ばれるこの花は、同じゴマノハグサ科のトキワハゼによく似ています。通りがかりのお客さんが、「あら、トキワハゼかしら？」などとつぶやくのを耳にしたこともありました。サギゴケは水田の畦道などに多い多年草で、葉を根ぎわに群生させ、その間から5～10cmの花茎を出します。鮮かな白い花をつけ、草丈が低いことから鷲苔の名がつけられていますが、決して苔の仲間ではありません。紫の花をつけるムラサキサギゴケの方が一般にはよく知られてい

るようです。サギゴケはその花の終わる頃に、基部から細長い走出枝(ストロンともいう)を出し、地

上に広げ繁殖します。ここがトキワハゼとの大きな違いです。トキワハゼは庭や道ばたに多い一年草で、根ぎわの葉の間から数本の茎を直立させ6～18cmになります。走出枝は出しません。乾いた土地を好んで生えるので、水田で見かける方はまずサギゴケということになります。トキワハゼは春から秋にかけての長い間咲いているので、これから注意して道ばたをさがしてみてください。(N)



インフォメーション

■郷土の森入場者30万人達成！

昨年4月4日にオープンした郷土の森。62年度入場者は22万人を越え、大盛況の1年でした。さらに、6月14日(火)には早くも30万人を突破しました。

★プラネタリウム投影時間変更

7月10日(日)より、表のとおり一般の投影時間を変更しました。なお、夏休み期間中(7月21日～8月31日)は日・祝日の時間で投影します。また、時間変更と同時に新番組に変わりました。

曜日/回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
火～土曜日	/	/	13:00	14:20	15:40
日曜・祝日	10:00	11:20	13:00	14:20	15:40

■夏休み開園時間延長

夏休み期間の日曜日のみ、公園と博物館1階部分の開園時間を1時間延長し、午後6時閉園とします。

ただし、雨天の場合は、平常どおり5時閉園とします。

あるむぜお 第4号  
 al museo イタリア語  
 “博物館で”“博物館にて”の意  
 発行年月日 昭和63年7月20日  
 発行 府中市郷土の森  
 〒183 東京都府中市南町6-32  
 ☎0423-68-7921